

深之當概名卷八地景を記し了りて
此元々之を記す事也其法を記す事也
了りて了りて了りて了りて了りて了りて

本云
此河越記西照作云云

古河越記以古馬一本校合了

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

赤谷記

上掲河普代之目錄

四天王

園谷加賀守

秋幸上鑑守

井上元清門

上原出羽守

長谷越後守

同 丹波守

同 備前守

同 隼人助

馬場次郎清

柳沢隼人助

野内儀兵衛

用土新守

新谷四郎左衛門
大沼左衛門八
世山丹波守
中嶋左衛門
友成源左九郎
小崎
大沢新助
波内伴左衛門
系
長田八左衛門

矢野九郎左衛門
梅沢新九郎
幸田与七郎
奥貫玄蕃
真木
竹内
針谷勘六郎
秋山将監
坂井源六
中田八左衛門

持田建左衛門
関根彦左衛門
栢野源左衛門
竹井将監
清水新六郎
吉田与左衛門
山田市之丞
岡田十左衛門
依原源三郎
伊原河内之助

関口八左衛門
白沢勘六郎
早野雲之助
栢越与左衛門
寺取助三郎
富田玄助
幸以九左衛門
井又權六
内藤仁九郎
新谷松左衛門

卷首五

下

佐藤了九郎

增田仁九郎門

永登源花

柴原紋虎

柴田七三郎

赤坂卯之助

永鴻彦想

越後の長尾中綱言系虎公平井治兵衛版之松官願
氏兼云之此對面之版之信之伴之我等之未世次會
此版之与之仰之松極之信之伴之此持之来之
系之何之版之也一人之之伴之松極之
愛舞之之之仰之此之伴之也中紋之也

指流次男之也之家未之行之也之信之伴之
飛龍之也伴之系虎治統之也酒盃之也之伴
得之也并山城之也之信之献之也之伴
向之也四年之也中之也之也今世次之也
之也之松之也指之也之也之献之也之見信之也
返進之松之也子之也其時在平次之也之也
之也之得之也之也之献之也用之也山城之也未之家先
米沢之也平之也石之也之也之也之也之也之也
之也之也之也之也之也之也之也之也之也之也
在平次之也之也之也之也之也之也之也之也之也

亥年

赤坂山志陣中村赤部十六集之的初陣上甲以
鹿分安石組打仕赤部肉之若く酒并取八部真之
甚西部之之或人少少八部敵の支腕と打落
し首名中其時の高親并弟在鹿門射取く上
以降之其時拾在鹿門より鹿肉之若く七助八部と市
左鹿門より西四部と在鹿門より鹿と下以

亥年

戸藏村是田之在鹿門より若く越後之深谷と味方
以降之其時中名取取洞中の越後鹿ハ之若く在の余

をそく病にも其のよとふは之彼の在鹿門具足力太
然之れを拾在鹿門拾之新沼中降之も返り中を山
城取以降之を鹿門拾在鹿門ハ若武若く降之は類之
志の新沼より同利返り降之は意之也

亥年

深谷分ハ左鹿門射取く多ク三ヶ尻丹波小紫能伴与肥字
取在鹿門松村飛弾志村勘録由佐野大守之明在返
中村丹波与甲別鹿の首取在鹿門射取く多ク之

亥年

田嶋助十部と中若く甲別一幸錢小山田赤部と若

の首より其時の心腹安んずる所より其年永捨貫文
處よりしり

卯年

深谷より小田原と和合し其越後の地より東と野中
山より北より小田原に對馬竹井右邊中村千鶴門松村
飛彈之ヶ尻丹後大谷舎人田中を以て七人の隊
抱負百人とせしり

未年

矢野光馬尉より中田覺と松村作兵衛より
其の始よりしり

石原谷よりは光馬尉の討ち入り柳屋後松村飛彈中
村捨虎門新井若狭同日向青木治部向井新丸
濱門より作舟より皆より名取の大村より中
越より車道よりしり中田服道より新云甲子人降り
少くはしりしり中村捨虎門より其をわしり馬
実落し其家来市松門別押首よりしり中田具足
甲斐守より馬道大小取中より中田具足
時より中田獲安んずる所より野村永捨貫文
文よりしりしり



丁年

御當代多増之時羽柴龍舟も及去奉在り御陣
法五之版又淺野陣兵少及八名之者より陣兵を版
比之時松田同備ハ御目見仕龍舟及八名之馬
一疋陣兵六月先之北行毛が人遊物ノ馬を牽せ
上中御兩人格つり中御之心か月ひの御判下り
深谷司心焼死多版ハ但多部遊ハ浅焼ハ版
秋元之野と夜御城面之居之也ハ別ハ之格り
上御之役与右身永鏡多文之格りハ此之版
人格之目見之御城也ハ此ハ版

丁年

悉の御城面之居之板巻御負居与中仁心御之也
世先之来御海之也此筒也之御之也落不中ハ版
何少之絶荒川之格り少水世先之御版之落不中ハ
卯年

中村高身同之御版同形ハ御深谷町之御在御
仕之御之也此ハ武井内御助松田同備田中豊
高橋九清寺并新島右之入之御江之御波多御
挟之御之也此ハ御版之御版之御版之御版之御
法御版之御版之御版之御版之御版之御版之御

武川伊豫守為國東一陣之甲上情及木部及倉
印年

右之四節店を移入御札を奉り上座に國情奉り上座
是に列記治世命矣之に御札を奉り之に一人奉
或貴文より毫許御札の上御流下深谷町
永代之年多し御意成約の御印判下位は務
と彩巻の八に御錢無法御奉り中より御奉り
深谷町より御奉り上座に御奉り之に御奉り
深く受辨仕奉り上座に御奉り之に御奉り
深く受辨仕奉り上座に御奉り之に御奉り

中町一町目御割より御奉り上座に御奉り之に御奉り
之に御奉り上座に御奉り之に御奉り之に御奉り
之に御奉り上座に御奉り之に御奉り之に御奉り
之に御奉り上座に御奉り之に御奉り之に御奉り

印年

武川伊豫守為國東一陣之甲上情及木部及倉
加能路踏及小別丹後及人質之を武川金窪入
心堂系より深谷鎮形忠元出合切有之御奉り上座
同之も高名之元小倉内御奉り上座に御奉り之に御奉り
相厚佐後丹後塚對馬田中在之井田治路村出

出雲新井日向の古高名は信國の遺を以て之を
一郡に傳へし中人の方より首一ツを川老の孫に
替中人の氣を不問ふ加賀四方跡を武川石切負より之を
取信濃必出府向と道とある人の質と云ふ上方一登と云ふ
深谷危文は因幡國肥後國外記國魚屋國魚屋國
利義清野沢并記去と孫津藤永村為小治伊豆津山丹波
之暇道茂未新義清於地と云ふ小船老存秋山は為不
然宋女持回石見中村丹好萩永信渡谷高火炊女野口
新倉中村下野口并刑部為志村勘解由次長大學
信野大學墨江平次為清氷新義火塚吉義清

鑑勉身以村云若授持田内胎持田彩八節甚末
美之新福嶋因於女孫小棠紀伊与是形並清
辨形危大敷能之節根為云仇立岩並陣紅林紀伊
高永初解由在富門之了了彈正过加賀白石台四并結
股能登小西右了并青木大學内藤孫只清水道
町回云信之泉之水
又深谷危版同之稅春日將監塚越大學
忠危清水越塚中里兵庫存友之孫早野并記所
并新倉之越塚修祿同將監孫并去蕃其并越塚林
大學松幸百之助野口大胎坊梶永源去處門位高親

高柳當麻考後

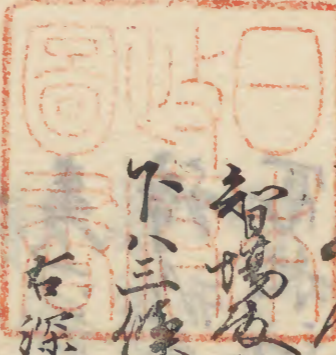
小田原茲城在河上於柳小條安房之史也騎河
及難波田友松田尾勝友成田下流也陸奧也其
山城燒也遠山丹後也皆川山城也

古河八公方操白井八長尾新田由良信濃也後足利

八長尾抄小泉八高尾新田三郎信野幸之國富八河內中務友之

智場友安房八鐵場常陸八鐵信尾安下野相中八島三郎友之

下三條友之



右源谷記以善於幸之能授命

群書類卷第三百八十五

昭和八年八月
内閣文庫

